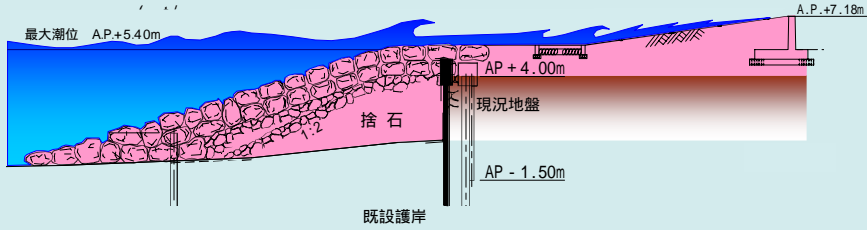


平成20年11月5日 第23回市川海岸塩浜地区護岸検討委員会資料

工事から2年後の検証・評価 < 防護 >



平成20年11月

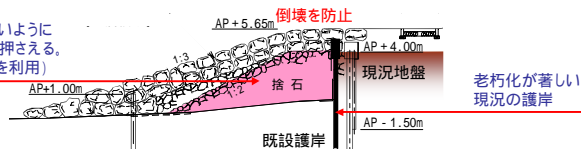
参2-1

1. “防護”に対する4つの指標

参2-2

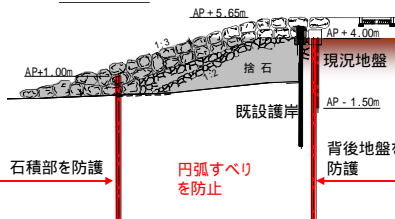
“緊急対応”への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。

護岸が倒壊しないように
前面を石積みで押さえる。
(完成形の一部を利用)



“耐震”への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
“ 背後地盤が ”

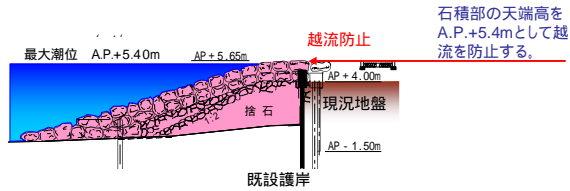
震度5強の地震時にも
石積部が保たれるよう
H鋼杭を設置する



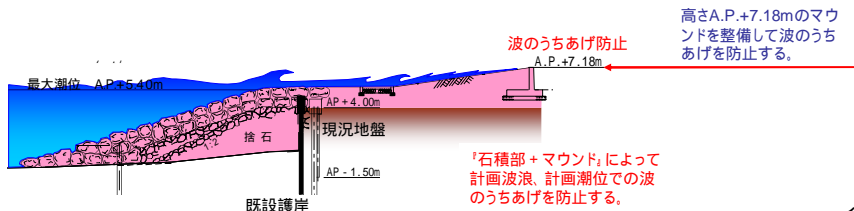
震度5強の地震時にも
背後地盤が保たれるよう
H鋼杭を設置する

最大潮位での”越流防止”への指標

： 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。



”高潮災害防止”への指標： 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。



参2-3

2. 検証基準

目標達成基準

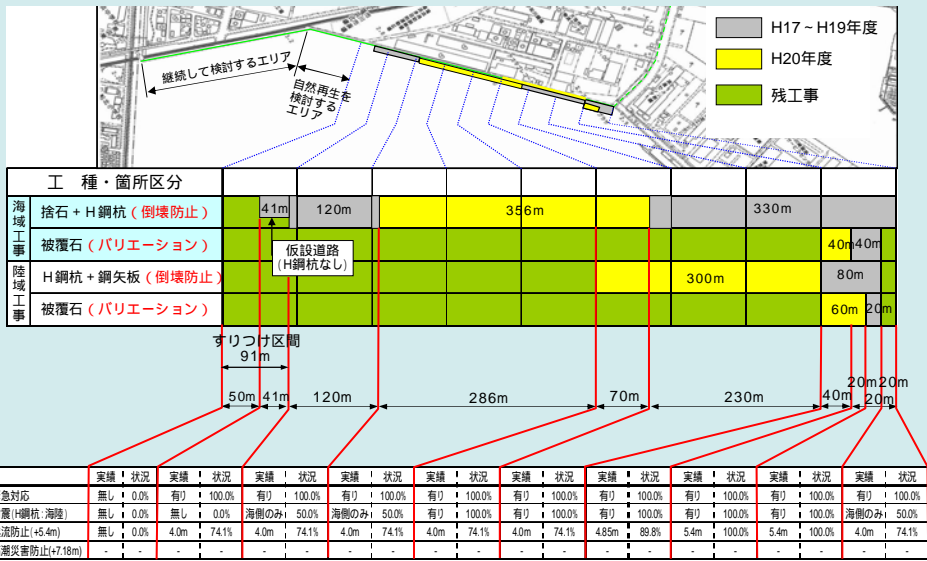
高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。

検証項目	目標達成時期	検証場所	基準とする値
防護の確保状況	平成22年度頃	塩浜2丁目	地域の防護に対する4つ指標がそれぞれ施工延長900mにわたって、 緊急対応への指標 100% 耐震の指標 100% 越流防止への指標 100% 高潮災害防止への指標 - を確保すること。

注) のA.P.+7.18mまでの背後地の高さの確保は、後背地の街づくりと調整中であるため、数値目標は設定しない。

参2-4

3. H20年度工事の検証結果(工区ごと)



上記 ~ の各評価については、(区間ごとの進捗率) × (区間延長 / 全体延長) の合計で算出します。

参2-5

4. H19年度工事の検証結果(指標ごと)

"緊急対応"への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。 **94 / 100**

"耐震"への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
" 背後地盤が " **66 / 100**

最大潮位での"越流防止"への指標
: 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。 **72 / 100**

"高潮災害防止"への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。 **後背地との調整中**

参2-6

5 . H20年度工事の評価

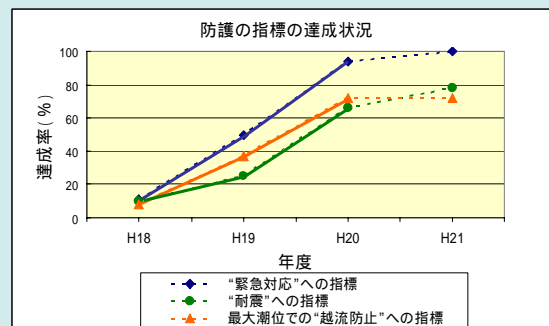
目標達成基準	高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。		
検証結果	"緊急対応"への指標	94 / 100	(50 / 100)
	"耐震"への指標	66 / 100	(25 / 100)
	最大潮位での"越流防止"への指標	72 / 100	(37 / 100)
	"高潮災害防止"への指標	背後地の街づくりと調整中	
注) カッコ内はH19年度			
防護の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・H19年度に対する数値は大きく向上している(最大で2.6倍)。 ・効率的で効果的な工事の進め方について、周辺環境に配慮しつつ検討していく必要がある。 ・"高潮災害防止"への指標についても、背後地の街づくり計画との調整を進め、高潮災害に対する地域の安全確保を図る必要がある。 		

参2-7

参考 . H21年度実施計画(案)での達成見込

項目	目標値 (%)	H18	H19	H20	H21
"緊急対応"への指標	100	11	50	94	100
"耐震"への指標	100	10	25	66	78
最大潮位での"越流防止"への指標	100	8	37	72	72
"高潮災害防止"への指標	-	-	-	-	-

注1) の指標については背後地の街づくりと調整中



参2-8